



仙台バッハゼミナール 主催
特別講座
～3月28日のワークショップに向けて～

多声曲って何？
ルターからバッハまでの教会音楽から感じる
多声曲の魅力

宮崎 晴代 氏

(中世・ルネサンス音楽研究者/
武蔵野音楽大学・昭和音楽大学講師)

2020年2月23日(日) 第1部 10:30～12:30
第2部 13:30～15:30

会場 : N-oval音楽サロン

聴講料 : 各部 2,500円 / 通し 4,000円 (別途 : 資料コピー代実費)

多声曲の楽しさと魅力を、音楽史の流れを追いながら、味わってみましょう。
3月28日に開催されるワークショップを受講される方も、受講しないけど多声曲の魅力を知りたいという方も、バッハの時代の教会音楽についてちょっと知りたいという方も、ぜひどうぞ。

【講座内容】

- 1.イントロダクション - 「多声曲」誕生物語-
- 2.多声曲って何？
- 3.ルターの宗教改革で教会音楽はどう変わったの？
- 4.コラール(讃美歌)って何？
- 5.コラールはどうやって作られたの？
- 6.コラールが拡大した？ -単旋律から4声体へ-
- 7.コラールがもっと拡大した？ -豊かな礼拝音楽(カンタータ)の誕生-
- 8.バッハへの道 -コラール・カンタータの仕組みと魅力-

宮崎 晴代 氏 プロフィール

武蔵野音楽大学音楽学学科を経て同大学院修士課程音楽学専攻修了。米国フロリダ州立大学大学院博士課程に留学、Certificate in Early Musicを取得して帰国。東京大学先端科学技術研究センター協力研究員として記譜法論を研究する。10年以上にわたりNHKFM『朝のバロック』の番組構成担当、『ベストオブ・クラシック』出演。音楽学を皆川達夫、永田仁、カイト・ポウエル、チェンバロをキャロル・ロウナーの各氏に師事。武蔵野音楽大学、昭和音楽大学、各講師。中世音楽合唱団所属。日本音楽楽学会、国際音楽学会会員、国際音楽資料情報協会日本支部役員。

《開催予定》

3月28日(土) ワークショップ
「多声曲を体感しよう！」

(講師：四野見 和敏 氏)

3月29日(日) 公開レッスン
「歌に生かすドイツ語発音法」

(講師：ヨズアバルチュ 氏)

《会場案内》 仙台市青葉区錦町1-5-1 N-ovalビル1階



《お申込み・お問い合わせ》

仙台バッハゼミナール

022-794-9244

sendai_bachseminar@yahoo.co.jp

協力

(一社)ミュージックプロデューサーM H K S